

防火安全協会飯館支部の支部総会

防火安全協会飯館支部が、6月18日、交流センター「ふれ愛館」で、令和6年度支部総会を開催しました。来賓に赤石澤傳飯館村消防団長（飯樋町）を招き、21人が参加しました。総会にあたり、佐藤賢二支部長（深谷）は、「頻発する自然災害に対し自主防災組織の強化を図ると共に、消防機関と連携し地域住民の安心・安全を守るための防火・防災活動をしていきたい」とあいさつ。また総会に合わせて、10年以上無火災・消防法令無違反を続ける「いいたてクリニック」に対し、優良事業所表彰を行いました。



ヨガのワークショップと菊芋の講演会

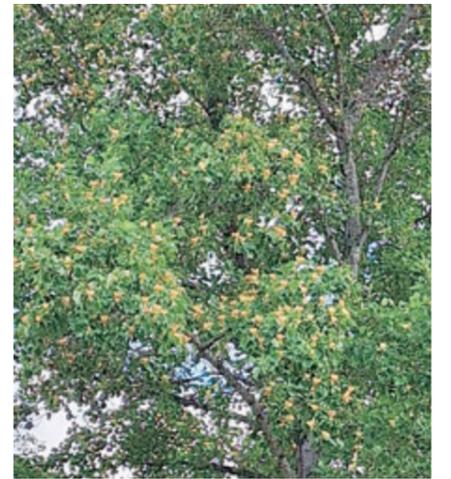
6月21日の国際ヨガデーにちなんだイベントが、同22日、交流センター「ふれ愛館」で開かれ、インド大使館・文化センターのヨガ講師、サンジェイ・クマールさんによるワークショップで、村内外の参加者が、ヨガのポーズ、呼吸、瞑想を体験しました。このイベントは、筑波大学の教授でインド出身のラクワール・ランディープさんと交流のある伊藤延由さん（小宮）が協力し、飯館村で開催されました。同大学外部講師の高橋玄朴先生による講演『菊芋・ヨガ・アーユルヴェーダの可能性と役割』も行われました。



ユリノキの大木に注目が集まりました

ユリノキは、百合の木・百合の樹とも表記されます。モクレン科ユリノキ属に属する落葉高木で、5月から6月にかけて上向きに咲く花の形が、チューリップやユリの花に例えられます。

写真は、原田直志さん（深谷）の自宅の昇口横に立つユリノキです。「この地域で大木が何千もの花を咲かせているのは珍しい」と口コミが広まり、聞きつけた人が次々に、この木の元を訪れました。原田さんによると、物心がついた頃にはすでにあり、いつ植えられたものかは分からないそう。「5月中旬に、根元の方から咲き始め、大木が花の色に染まります。毎年眺めていましたから、急に注目をされて驚いています」と話していました。来年の開花が今から楽しみです。



水曜限定でまごころに登場「もりの駅弁屋さん」

5月に開業した『もりの駅弁屋さん』。水曜日限定で、加工施設「もりの駅まごころ」に、おいしいお弁当がずらりと並びます。

駅弁をつくっているのは、「ゆかり農園」の木幡百香里さん（伊丹沢）です。まごころの厨房で仕上げる幕の内弁当には手作りの惣菜がぎっしり。他にもカレー弁当、丼物、麺類、デザートなど、ラインアップは週替わりで、バリエーションも豊富です。サービスの味噌汁もあり、店内でゆっくり味わう人も。おこわやサラダ、惣菜、漬物などのテイクアウト商品も人気です。



「週に1度しか開店しないもりの駅弁屋さん、震災からもう戻す飯館村を微力ながらも上げたいと思っています。毎週リピートしたくなるおいしい駅弁をつくってまいります。」



毎週水曜日の午前11時から午後2時まで営業します。

野菜やプリンの販売も。

この日の幕の内弁当は、焼き鮭、唐揚げ、信田巻、田楽、玉子焼き、ポテトサラダなど。どの料理もこだわりのおいしさ◎



持ち帰っても店内で食べてもOK。

飯樋町下組による地区の花植え

5月26日、飯樋町行政区の下組が、地区の花植えの活動を行いました。この花植えは、昨年からの実施され、今年で2回目の行事となります。飯樋町下組の各家庭の軒先をきれいな花で飾ろうという趣旨で行われています。

当日は、飯樋町の集会所前に組員が集まり、互いに協力しながら、マリーゴールドやミニひまわり、ペチュニアなどの花をプランターに植え、各家庭に持ち帰りました。



道の駅の「親切」に届いたハガキ

相馬市の方から、杉岡村長宛てに、心温まるハガキが届きました。ご紹介いたします。

相馬市の一住民です。（中略）去る5月13日、「きこりの「イオラ」に向かう途中、「までい館」で買い物しました。買おうとした品には「野草」と記されていました。小さな花の色に惹かれて抱えてレジに行き、花の名前を聞きましたが、分からないとの返事でした。精算し、帰ろうとレジから数メートル離れると、後ろから女性の店員が来て、花の名を調べましょうかと言われました。（中略）その名は「紫蘭（しらん）」とのことでした。

彼女の小さな善意に、とても気分良く、その後、きこりのイオラを利用し、帰ってきました。彼女一人の小さな親切かもしれませんが、私にとっては、村全体の人の、心温かい印象としてずっと残り、次回も利用したくなりました。（後略）



素敵なエピソードを、ありがとうございました。